

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000246		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 尼崎稲葉荘 (ひまわり)		
所在地	兵庫県尼崎市稲葉荘4-5-10		
自己評価作成日	平成26年1月19日	評価結果市町村受理日	平成26年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2893000246-00&PrefCd=28&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心・安楽な生活の中で、その人らしさをいつまでも持続して頂けるよう、スタッフ一同チームケアを大切に自立支援させて頂きます。
 又、ホームの理念でもある”楽しいわが家”を目指し、家族のようであり、尊厳を守れる明るい居場所でありたいと思っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全てを凝縮した誰もが分かり易くとの思いから「楽しいわが家」とホーム理念を掲げ、利用者によくの笑い声や笑顔が見られアットホームな中で利用者を尊重した支援となるように努めています。ホームの夏祭りはロコミで広がり、地域の子供たちなどの参加を得て賑やかに開催したり、次年度より毎月自治会の清掃活動に利用者に参加を予定するなど地域と良好な関係を築いています。職員間は連携が良く取れ、研修への参加や会議時には司会や書記を交代で務め、外部評価の自己評価では全員が意見を出し合い日頃のケアを振り返る機会とする等、職員を育てる為の工夫の中で、スキルアップを図り向上心を持って利用者支援に活かされています。また家族はホーム運営についてなど積極的に意見を出され、介護相談員の受け入れと共に利用者、家族の意見を大切に聞いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と、申し送りスタッフは朝礼時にニチイの”社は”および”経営理念””ほほえみ尼崎稲葉荘理念”である”楽しいわが家”の唱和を行い 共有している。	法人理念の基、すべての思いを凝縮した誰もが分かり易い理念をと考えて作っています。理念は玄関や休憩室に掲げると共に毎朝唱和し、職員に意識づけをしています。日々の暮らしの中で、利用者の笑い声や笑顔が見られるよう理念を意識した支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し 自治会長 民生委員さん等に運営推進会議に参加して頂き、情報交換している。(利用者様参加もあり)(夏祭り、消防訓練などでは 子供さんの参加もあり)	ホームで毎年行う夏祭りはロコミで広がり、地域の子供たちの参加を得て賑やかに開催しています。散歩や買い物の際に出会った方々と言葉を交わしたり、マジックショーなどのボランティアや地域の介護相談員などの来訪があり交流しています。地域との関係は良好で次年度より毎月自治会の清掃活動に利用者と参加を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区CM連絡会に参加し情報交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の運営推進委員の方から意見や助言を頂き、サービス向上に活かしている。	会議は家族や、数人の利用者、自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て隔月に開催しています。民生委員の意見から地域の高齢者の現状を知ったり、サービスに関する意見や通所受け入れに関する家族の意見なども出されおり、内容によっては会社に上げるなど運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員の方に運営推進会議に参加して頂いているので 困難事例等を相談していきたい。(GH連絡会に高齢介護課職員の参加あり)	区分変更などの諸手続きや認定調査の依頼の他、分からないことがあれば出向いて相談しています。市の介護相談員を受け入れており、関わりを深め協力関係を築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務ミーティングにてマニュアルの周知を行い正しく理解している。玄関は施錠していない。	身体拘束に関する研修受講シートを全員が記入し、研修後も資料を回覧し周知徹底を図っています。ホーム長は日々の業務の中で言葉による拘束について説明や注意をしています。フロア出入口は施錠していますが、利用者が自由に動けるようできるだけ付き添い、難しい場合は納得してもらえるよう理由を伝えています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務ミーティングで十分に全員に周知できている。スタッフ間の情報交換も行っている。利用者様の変化に注意している。	虐待防止に関する研修受講シートを全員が記入し、研修後も資料を回覧し周知徹底を図っています。ホーム長は職員のストレスなどにも気を配り、様子を見ながら声掛けしたり、常時相談に乗り話を聞き虐待の防止に努めています。	

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にて話し合い 必要性のある方には支援していく。 (パンフレット回覧あり)	過去に制度を利用していた利用者があり、権利擁護に関する役所のパンフレットを用いて制度の理解に努めています。必要な方が居れば支援できるよう体制を整えています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者様と家族様が不安に思うことに耳を傾け、納得いくまで話し合いを行っている。	契約の際は利用者、家族の質問に答えながら丁寧に時間をかけて説明しています。退去の理由や緊急時対応については特に十分な説明を心がけ、納得が得られるよう努めています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員さんの定期的来所(2回/月)や、行事参加などで利用者様の話しを聞いて頂き、毎回内容・報告をうけて検討項目とし運営に反映している。	利用者の意見は日々の暮らしの中で聞いたり、月2回介護相談員の訪問時に利用者の声を聴いてもらっています。家族の意見は年2回の家族会や運営推進会議、面会時に聞いたり法人のアンケート調査も実施しています。個別の意見については介護計画に反映し、訪問看護導入についての意見ではメリットやデメリットについて説明するなど運営に活かしています。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で意見や提案を聞くようにしている。個人面談も随時行っている。	毎月のスタッフ会議の際は書記や司会を交代で行い職員が意見を出し易いよう工夫しています。利用者の支援方法など職員は積極的に意見を出しており、意見を取り入れながらサービスに活かしています。また年に2回個人面談を実施しており、意見を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度の周知によるモチベーションの向上を図っている。 他サービスへの 異動の希望もあれば話しを聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には全員が参加できていないが、業務ミーティング・導入研修・ケアマネ研修・フォローアップ研修など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会(討論会・交換研修・勉強会等)に参加して、サービスの質の向上に努めている。		

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人から聞くことは難しい為 家族様にも協力して頂き 出来るだけ 利用者様の思いをくみとり安心して頂けるよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の話しを聞く機会を作って 困っていること、不安に思うことを聞き、納得がいくまで回数を重ねて話し合う。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメント時に、生活暦等を把握し、馴染みの暮らしが持続できるよう支援に努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んで、居室へ運ぶのを利用者様と共に行うことで共存の意識も生まれ、関係の構築に努めている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは利用者様と家族様との仲介役を担い、行事などの参加を促したり、生活ぶりや 身体の状況等を 毎月ホーム便りを通して報告している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや面会時の案内などより良い支援を心がけている。	友人や親せきの来訪があり、リビングや居室でゆっくりできるよう配慮しています。年々希望は少なくなっていますが家族と散髪屋に髻そりに通う方や定期的に墓参りに出かける方には外出がスムーズに行えるよう段取りや更衣など必要な支援をしています。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わりあい、孤立しないよう スタッフが仲介してサポートしている。		

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了すると、家族様との連絡も少なくなり、必然的に関係がうすくなっているが電話連絡等がある方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にセンター方式にて情報収集し できる限り家族様、利用者様の希望・意向の把握に努めている。	家族に書いてもらった情報を参考にこれまで大切にしてきた事や習慣、入居に当たっての要望などを改めて聞き、意向の把握に努めています。日々の支援の中で意向に繋がる変化や利用者の言葉や表情などを介護記録に記載して職員間で共有し、カンファレンスで思いを推測しながら、意向に沿った支援について話し合っています。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に、生活歴やこれまでのサービス利用の経過等をまとめたシートを作成し、これまでの暮らしが持続できるようにしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1度のカンファレンスを行い、利用者様の状態を把握し スタッフ全員が共有している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成時に、家族様訪問時や電話等から生活に対する意向などを聞き、取り入れ6ヶ月毎に交付している。	アセスメントを基に利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成しています。毎月担当者が全職員の意見をまとめてモニタリング及び評価を行い、計画に沿った介護ができているかを確認しています。変化がなければ6ヶ月毎に再アセスメントを行い日々の記録やモニタリング結果を参考にサービス担当者会議を開き計画を見直しています。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に分かりやすく記録し、特変時など確実に申し送りを行うようにしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容・特別な買い物・臨時通院等 随時対応している。		

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防士を交え、年2回 消防訓練など行っている。楽団・マジックのボランティアにも定期訪問してもらっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様と家族様の希望に応じて主治医を決定し、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に今までのかかりつけ医を継続できることを伝え、決めてもらっています。継続している方もかかりつけ医の往診を受けています。ホームの協力医は月2回の往診がある他、日々の健康管理は毎週訪問看護師が行い、どちらも緊急時や必要時には24時間連絡が取れる協力体制を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週 医療連携体制による訪問看護師による体調管理を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様・医療機関・主治医と連携し、早期退院に向け、カンファレンスを行っている。お見舞いに行った時に病院よりの情報を収集するようにしている。	利用者が入院した際には面会に行ったり、カンファレンスに参加し情報交換しています。早期に退院できるよう家族とも連絡を取り合い、退院後の往診を早めに設定するなど、これまでの生活がスムーズに安心してできるよう支援しています。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族様、主治医と話し合いを持ち、全員で方針を共有し 関係者と共に支援にとりくんでいる。	入居時にホームの方針について説明し、常時医療が必要となった場合は支援が難しいことを伝えていますが、これまで支援の経験はありませんが、医師の判断を仰ぎ、利用者や家族の希望があればその都度家族や関係者と話し合いながら方向性を決める予定としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故トラブル報告書 ヒヤリハットの共有、活用。緊急時対応マニュアルの周知。業務ミーティング開催。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間1名対応時の避難方法は、全員周知している。地域の協力も運営推進会議で呼びかけ快諾を得ている。年に2度消防署の指導の下、避難訓練を行っている。	年に2回消防署の指導を受けて避難訓練を行い、通報や火元から離れたベランダへの避難誘導や水消火器訓練などを行っています。運営推進会議で利用者一人ひとりに支援が必要なホームの状況などを伝え、具体的な協力を依頼しています。	

ニチケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を守り 常に笑顔と言葉づかいに注意をして声かけ、対応をしている。	入職時や年1度接遇マナーに関する研修を実施し職員が利用者を尊重した対応ができるよう努めています。一人ひとりに合わせた声掛けやその場の状況などに合わせ、声の大きさなどにも配慮した対応に努めています。日頃から第三者が聞いても不快にならないような対応を心がけています。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できない際、家族様に確認し納得して頂くようにしている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせた対応を心がけている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容 1回/月 パーマ、毛染、カット、顔剃り 外出時や行事の時は スタッフがお化粧やヘアセットをしている。同じ服装にならないよう気配りしている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様ができるそれぞれの役割を持ち、見守りながら一緒に行っている。食事介助の方には食材の内容を説明しながら支援している。	利用者に食べたい物を聞きながら献立を立て、利用者にできる事に携わってもらっています。食事が楽しめるよう誕生日には希望の食事を提供したり、会議や行事の際には弁当や寿司などの出前を取っています。またおやつを一緒に作ったり、喫茶店に出かけることもあります。職員は交代でテーブルに着き、会話をしながら介助や見守りを行っています。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量と水分量を記録し、1日1300mlは摂取できるよう 細めに水補している。水分が摂れにくい利用者様には トロミをつけ 嚥下低下の利用者様には ミキサー食を提供している。(Dr指示)		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。(歯科往診もあり) 歯みがきは出来ない所は介助を行っている。		

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう誘導している。	排泄記録を参考に個々の排泄リズムに沿って支援しています。失敗があっても安易にパットや紙パンツに移行せず、変更時にはカンファレンスを開き職員で意見を出し合い決めています。出来るだけ失敗を減らせるよう本人に合った排泄用品の工夫し、快適に過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取、定期的なトイレ誘導での、便秘予防。水補時にラブレ、野菜ジュース等、便秘により飲物を提供 米に麦を入れたり、朝食にさつまいも・ヨーグルト・バナナ等提供。適時腹部マッサージを行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週1~3回ペースだが、希望や体調に応じて入浴を実施している。(シャワー浴・2人介助もあり)足浴や手浴を行って 気分転換を図っている。	入浴は利用者の希望を聞きながら週に2~3回入ってもらえるよう支援しています。希望を聞いて同性介助をしたり、好みのシャンプーなどを使用する方もいます。入浴を好まない方は時間をずらしたり、職員が交代して声を掛けるなど工夫し、難しい場合は次の日に延ばすなど無理のないよう柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に音や光が入らぬよう環境を整えているが眠りの浅い利用者様には 体調にあわせて日中、居室のベッドで休養をとってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が服用している薬の服薬管理を確実に 行い 症状の変化の確認と主治医への報告に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味 嗜好に合わせた気晴らしの支援を行っている。 お盆拭き、廊下の散歩、歌観賞、読書など。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニに行ったり、ホーム周辺の散策や玄関先での日光浴等支援している。 近くの喫茶店に外食ツアーも実施している。	気候が良い時期は散歩や買い物に出かけたり、近所の喫茶店に食事やおやつを食べに出かけたり、ホームのウッドデッキでお茶を飲み気分転換してもらおう事もあります。今後は利用者の行きたい場所に出かける支援に取り組むと考えています。	今後は利用者の行きたい場所を聞いて出かける支援に取り組むと考えており、取り組みが実現でき、利用者の外出の機会が増えることを期待します。

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用することへの支援はしているが 頻度は多くない。お小遣いの管理は事務所で行っている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やハガキはスタッフと一緒に書いている。電話の支援も行っている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光が入らないよう、窓やカーテンの開閉を こまめに行っている。また、ホーム敷地内に咲いた花などを花瓶に差し、季節感を採り入れている。リビングの壁面に行事の写真などを展示している。加湿器の使用もあり。	明るい共用空間には行事の際の写真や利用者が元気な頃に描いた油絵、温かみのある家族や地域の方の作品などが多く飾られています。また季節に応じた雛人形などを飾り、利用者の季節感に配慮したり、利用者同士が快適に過ごせるよう座席も配慮しています。窓を開けての換気や温湿度の管理の他、夜間などは照明の明るさにも配慮しています。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング横に和室を設け、利用者様と家族様がくつろげるスペースを造っている。(ソファも活用している)		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それまで使っていた 家具やベッド 愛着のある生活用品を使用している。家族様や行事等の写真を居室におき 利用者が安心して過ごせる空間作りに努めている。	馴染みの家具や使い慣れた物を持って来てもらうよう伝え、利用者は鏡台やチェスト、テレビなどを持ち込み、過ごし易いよう配置しています。写真などを飾ったり、ラジオを聞く方などその人らしい居室となっています。また夫婦の入居者は自宅のように寝室と居間に使い分けたり、希望があれば畳を敷き、布団で休むこともでき、生活習慣に合わせて支援しています。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全や混乱がないように 常にスタッフが見守りや声かけをして 自立支援を行っている。		